

## 公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 のご紹介

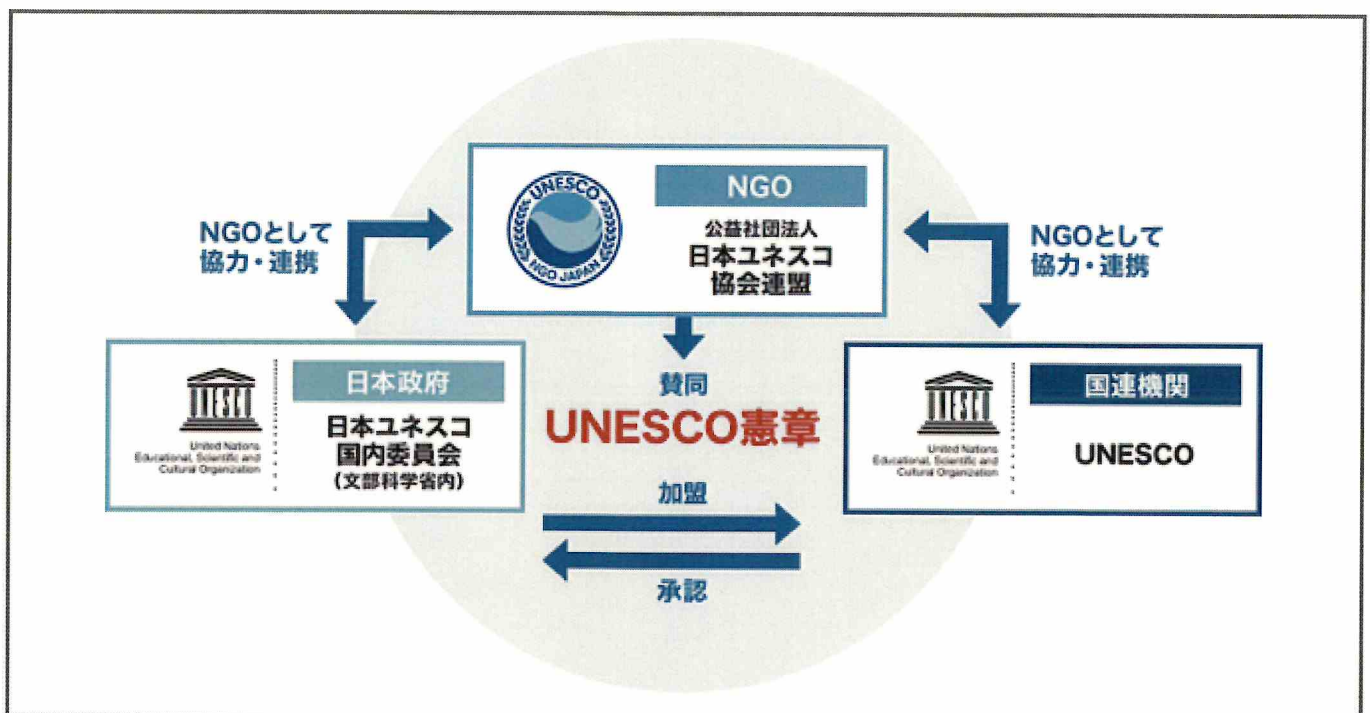
### 1. 組織について

日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO 憲章の理念に共鳴し、国際平和と人類共通の福祉の実現を目指し、国内外で草の根活動を行っています。

UNESCO（国連機関）や日本ユネスコ国内委員会（文部科学省内）と連携・協力して活動していますが、これらの下部組織ではなく、財政を含めて独立した民間の組織（NGO）です。

2019年3月現在、全国に278のユネスコ協会、クラブがあり、約16,000名の会員が在籍しています。

日本ユネスコ協会連盟は、これらユネスコ協会・クラブの連合体組織となります。



### 2. 始まりについて

1947年、UNESCO 憲章に共鳴した市民により、日本の UNESCO 加盟を目指す草の根活動が仙台で起こったのが、ユネスコ協会のはじまりです。

1948年、全国の協会との連絡調整や、活動の連携をサポートする団体として当連盟が発足しました。

1951年に日本は UNESCO 加盟を果たし、国際社会への復帰の第一歩を踏み出しましたが、それを後押ししたのは草の根のユネスコ活動の力でした。

### 3. 主な活動について

日本ユネスコ協会連盟の活動資金は、94%が会費及び民間からの寄付金で成り立っています。公的資金を受けることなく、下記のビジョン・ミッション（2017-2026）のもと、活動を展開しています。

**ビジョン**：「"Peace for Tomorrow" 広げよう平和の心」

**ミッション**：SDGsの**目標4「教育」**を通じた「**平和な世界の構築」「持続可能な社会の推進**」

#### 世界寺子屋運動

貧困・紛争・女性などの理由で、教育を受けられない人々のために、途上国に学びの場と機会を提供し、生きる力を育みます。（カンボジア、ネパール、アフガニスタン、ミャンマーで実施）

**30** 年間で **44** カ国 **1** 地域 **131** 万人の受益者



#### 世界遺産活動・未来遺産運動

人類共通のたからものである世界遺産と日本の大切な自然や文化を、尊ぶ心を育み、保護・保全を通じて、未来へ継承していきます。

未来遺産（**11** 年間）**37** 都道府県に **73** プロジェクト



#### 減災教育と自然災害発生後の教育支援

自然災害で被害を受けた子どもたちの学びや夢を支える教育（奨学金）支援とともに、被害を抑える減災教育を行っています。

**3286** 名の奨学支援と **1486** 名の遺児孤児支援



#### SDGs 達成に向けた次世代育成

誰も置き去りにしない、よりよい地球をつくるために。グローバルな視野をもって、地域で活動する次世代を育成しています。

SDGs パスポート（8年間）の参加者は **10万6000人**



#### ユネスコ協会・クラブの活動

持続可能な社会をつくるため、UNESCO 憲章の理念のもと、国内では、北は北海道から南は沖縄まで、**278** のユネスコ協会やクラブが**ボランティア**で、地域に根差した活動を展開しています。

